

安全運転

ほっと NEWS
2010年 2月号

今月のデータ

約

1290万台

平成20年12月末現在の二輪車（自動二輪・原付バイク）の保有台数です。二輪車の保有台数は昭和61年の1890万台をピークに以降は毎年減少傾向にあります。



二輪車の特性を知り、こんな衝突事故に注意しましょう！ 二輪車との交通事故防止策

自動二輪や原付バイクの運転者は、衝突による衝撃を身体に直接受けるため重大事故につながりやすくなります。二輪車との交通事故を回避するためには、その特性を知り、二輪車の運転行動を予測して自らが積極的に事故を回避しようとする運転を心掛けることが重要です。今回は、二輪車事故の実態と二輪車の特性を考えた事故防止策を解説します。

二輪車事故の実態

(財) 交通事故総合分析センターから発刊されている平成19年版交通事故統計年報によると、当事者別の交通事故は、「車対車」が41万9千件、「車対二輪車」が12万1千件の事故が発生しています(図1)。一方、同じ年で交通事故件数100件当たりの死者数をみると、「車対車」では0.38人に対し「車対二輪車」では2.26人にもなり、死亡リスクは約6倍に達します(図2)。このことから自動車の運転では、二輪車との衝突を防止する対応が求められているといえます。

図1 当事者別交通事故件数

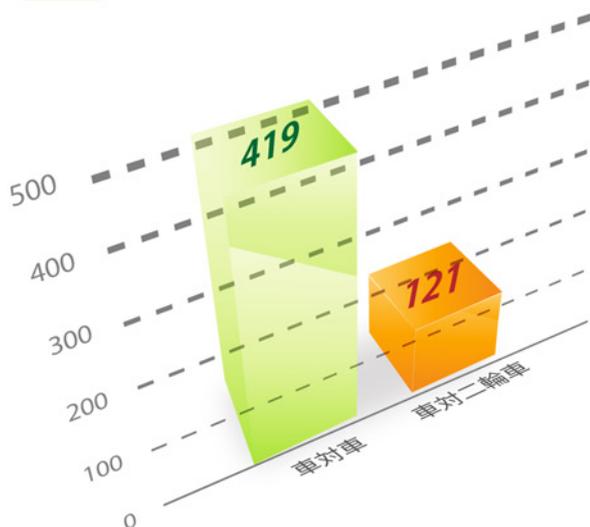
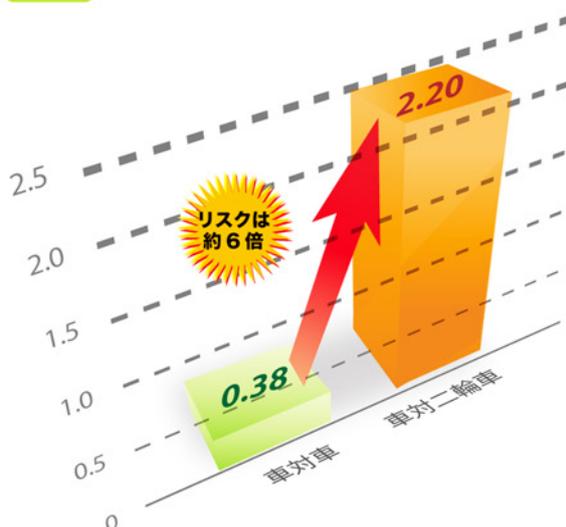


図2 当事者別・交通事故100件当たりの死者数



二輪車の特性

二輪車の特性として、車体が小さいため、見落とししったり距離感や速度感を間違えることがあります。図3の二輪車とトラックが前後している場面を、正面から見ると、図4のように同じ距離・速度のように見えます。また、二輪車は路面状態により走行安定性が損なわれるために運転者は、視線を下に落としがちになり周囲の状況変化に対する注意力が欠けることが多くなります。その結果、進行方向の障害物を回避するために急な進路変更による割込みや二輪車の転倒に注意することが大切です。

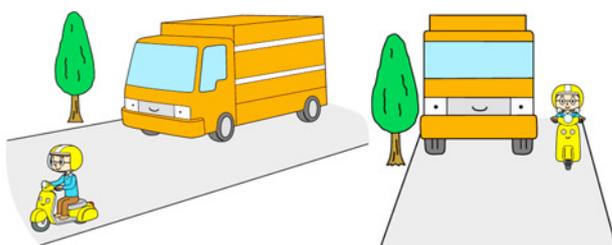


図3

図4

衝突事故防止のためのポイント

■ 交差点での走行（１）

● 右折時の衝突

交差点で右折する自動車と直進する二輪車が衝突するパターンです。この事故原因は、右折する運転者が、二輪車の速度を実際より遅く判断したり、安全な距離があると判断したりして、素早く右折したことにより起こっています。二輪車は、交差点に接近すると早く通過しようとして速度を上げる場合が多く、予想以上に速度が出ています。二輪車が見えていたときは、無理をせず、その通過を待ってから右折することが大切です。



進路を譲ってくれても・・・

交差点や対向車線側の施設に入場する右折待ちの場面では、道を譲られると、早く右折しないとの心理状態から一気に右折しがちです。道を譲ってくれても安全確認は運転者の責任で実施し、自動車の死角から二輪車が出てこないか確認し、「サンキュー事故」を起こさないように注意しましょう。



■ 交差点での走行（２）

● 左折時の衝突

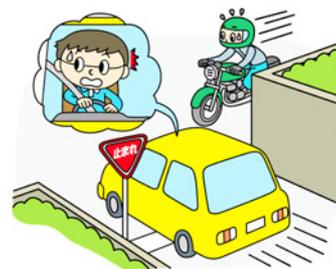
交差点で左折する自動車と直進する二輪車が衝突するパターンです。この事故原因は、左折する運転者が、左側方の二輪車を確認しなかったか、ミラーの死角に入っていて見えなかったことにより起こっています。自動車が左折する際は、早めの合図を出すとともに、後方や左側方に二輪車がないかをミラーや目視で確認し、左折のための適正な減速をします。二輪車がいるときは、緩やかに左側方をつめて追い越しが出来ないようにするか先に行かせてから左折することが大切です。



■ 交差点での走行（３）

● 直進時の衝突（出会い頭の衝突）

特に見通しの悪い交差点での直進する自動車と二輪車が衝突するパターンです。この事故原因は、交差点を通過しようとする双方（または、どちらか）の運転者が、「徐行」または「一時停止」による安全確認が不十分により起こっています。二輪車の運転特性として、発進時や停止時にバランスを崩しやすいため、「一時停止を嫌がる」傾向にあります。したがって、自動車が優先道路を直進する際、交差する道路に二輪車がないかをカーブミラーや目視で確認し、二輪車がいるときは、急に飛び出すことも予想し適正な徐行運転することが大切です。



東京海上日動リスクコンサルティングの自動車事故削減プログラム

東京海上日動リスクコンサルティングでは、カメラ付ドライブレコーダを使用した自動車事故削減プログラム（法人向け）をはじめ、各種事故削減メニューを取り揃え、ご提供しております。

詳しくは、03-5288-6586（担当：西村・阿部）までお問合せください。
（HP：<http://www.tokiorisk.co.jp/>）

ご用命・ご相談は・・・

「やすらぎ」の設計が私たちの使命です。

保険システム株式会社
INSURANCE SYSTEM CO.,LTD

〒950-0087

新潟市中央区東大通2-4-1 新潟パナソニックビル6F

TEL 025-243-7374 FAX 025-243-0921

E-MAIL yasuragi@hokensystem.co.jp

URL <http://www.hokensystem.co.jp>



東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内1-2-1

TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590

URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課